

スポーツの「みる」「知る」に関する学校教育の学びの可能性

－サッカー解説者の着眼点と解説内容に着目して－

鈴木佑弥 （ 埼玉大学 ）

1. 目的

本研究の目的は、「サッカー解説者による着眼点と解説内容」という新しい視点で調査を行い、学校教育現場における「する、みる、支える、知る」の「みる」、「知る」を豊かにするための働きかけ方を知り、学校体育でのスポーツの「みる」「知る」に関する学びの可能性を広げることには生かすことができないかを提案することである。

2. 研究方法

1) 対象者

- ・F氏 ライセンス S 級、指導歴 15 年、プロ歴 13 年
- ・K氏 ライセンス S 級、指導歴 27 年、プロ歴 1 年
- ・N氏 ライセンス A 級、指導歴 4 年、プロ歴 20 年

2) 調査方法

- ・対象者へのインタビュー、対象者が解説している試合の分析

3. 結果と考察

解説者の視聴者への思い

1) 解説者の視聴者への思い

「サッカー解説をする際に、重要だと考えていること」という質問への回答から、簡単な言葉を用いることや、何気ないプレーの意図まで伝えることを重要視していることがわかった。このことから、解説者は、視聴者がよりわかりやすく、サッカーを視聴できるようにサポートする意図をもって解説を行っているといえる。

2) ライト層（初心者）への配慮

「解説をする際に意識している対象（視聴者）はあるか」という質問への回答におい

て、三者とも「ライト層」を特に意識していることがわかった。解説者たちは、サッカー観戦を楽しむ人々を増やすために、特にライト層に配慮して解説を行っていることがわかった。

3) 「みる」を始めるために伝えたいこと

「小中学生を含む、サッカー未経験者等の人へのサッカー観戦時のアドバイスはあるか」という質問への回答を得た。自分に合ったサッカーの楽しみ方を見つけ、様々な視点をもって観戦することができるように大人がサポートが必要であることがわかった。

4) サッカー解説者の解説する思い

「サッカー解説者の役割とは何か」という質問への回答を得た。三者「サッカーの楽しさ、魅力を伝えたい」という思いが強くあった。その先にサッカー観戦をした人がスタジアムに足を運んでもらうことがサッカー解説者の思いであることがわかった。

4. 結論

本研究で、スポーツの「みる」を豊かにするために「大人の補助が必要になる」ことがわかった。このことから、教育現場において、教員が時間を割いて映像とともに指導を加えていくことで、サッカー観戦が「面白い」と感じてもらえるきっかけになり、「みる」「知る」を豊かにすることに繋がると推測できる。

5. 主な参考文献

- 1) 細間宏通, 劉礫岩, スポーツ実況における発話による出来事の指し示し, 2017, 第 16 号
- 2) 三宅和子, スポーツ実況放送のフレーム, ひつじ書房, メディアとことば第 1 巻, 96-126